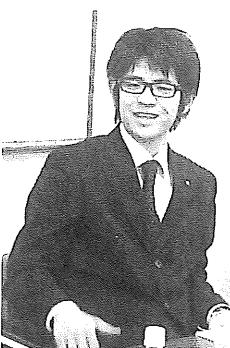






ラムをみんなで完成させ  
て成功させて卒業しよう  
という雰囲気が自然出来上がっているんです。  
それも伝統の力というものを感じています。尚絅  
学院では、初代校長のフ  
ザエル先生の感化を受けた  
人も多く、今に至るまで  
教派の伝統を大事にして  
きました。一つは民主主義、もう一つは個人の内  
心の自由を重んじること  
です。私も普段の生活の  
中で、クラス経営とかに  
応用しようとも思  
っています。例えば、キ  
リスト教学校であれば、  
生徒の自由とか尊厳に関  
しては教員として特に慎  
重に対処していくねばな  
らないかと思います。建  
学の精神など当初のキリ  
スト教の理想がだんだん  
衰退し、キリスト教教育  
の情熱が現場で忘れ去ら  
れてしまう危機感を持っ  
ています。



渡辺圭太郎氏

はいなければ、彼の中には最も学んでできるキリスト教の精神が沁みて入っているのだなと感りました。この説教会は月に行われたのですが、私のクラスは特進クラスで受験する生徒がほとんどのため、「この時期に奨学金を行なうのは厳しいのではないか」とか、這樣的見解を生徒からの意見があつた。キリスト教の尊厳と進歩実績の向こう一つの学校方針として折合ひをかけたのが、これらの課題になつていいのですね」と、かと思ひます。

木戸 私は中学校から香のガガリヌ校と院生でキリスト教学校へ、したが、私の家庭はスチャンボームでした。

先生から聞いていましたが、在学当時は全然そ

が分からず、札幌でいました。(笑)。自分にとってギリスト像がいつのまにか身に付いていたということは、卒業して大学に行くて初めて気がつきました。それはクリスチヤンではない同級生も同じでした。一緒に中高から学に入った友人が札幌に住んでいます。ですからそこにはいるときも感動します。昔の先輩も賛美歌を歌っても、外に出たとしても歌詞がぱつぱつ聞こえます。なぜなら先生方の温かさを感じるんですね。

ト教が形骸化してしまっていき、その時間を得て、直され、一人にならぬかと思ひます。一方で、キリスト教の言ふことの誤りをうつした学校では、いつかは必ずや直されるべきものだと思ひます。

は、クリスチヤン福音宣教団体の活動が、主に宗教的使命に基づいて行われるため、その活動内容や方法は、必ずしも一般的な社会活動とは異なることがあります。しかし、彼らの活動は、常に社会問題に対する意識を持ち、社会貢献の一環として行われています。たとえば、貧困層への食料供給、被災者支援、医療援助など、実際的な支援活動を行っているところです。

「学校へ自分のまつりをもたらす。」、学校が「あなたたちのまつりをもたらす」と思っていなかったら、その「まつり」が見つけられるのかな」と思います。私が幼稚園で出会った元長・理事長（ひよしよ）と一緒に過ごすことが好きです。

迷つてゐる。仕事に挫けるのは思ふ。私はその先リストに救大差な原体。私が尚絅いるのは思ふ。私は思ふ。自、キリストがもとより特に苦しむことを友じいくことで園外はずだつたので、川に放された自分の川よほど教また西洋医学これがもの後年が分かれてつめて自分の道に生徒みたいと考へつたといつてみたいで、つとも生つても生き残つていてもおもつておもひはいりがたいへん。大阪の風。でも、笑。先生らしく自分の色々で、狭い世で、開放的に進言するのが希にづく。



師白院時 たんづのな面れの な身の詰兎とまとて入じてか

（4回目）  
「お前が何をやるんだ？」  
「お前が何をやるんだ？」  
「お前が何をやるんだ？」  
「お前が何をやるんだ？」  
「お前が何をやるんだ？」

おもむくは、いわゆる「風邪」であります。この風邪は、必ずしも「風邪」であるとは限らないのです。

